

空木岳（伊奈川ダムから越百山・南駒ヶ岳を経て周回）

中部山岳縦断山行

2015年7月19日(日)小雨から強風本降り、20日(月)ガスから晴天
メンバー：花村（リーダー）、佐々木（記録）

アクセス：

国道257号線、恵那経由で国道19号線へ

前泊は伊奈川ダム上の登山者駐車場

深夜に到着した時は10台程度だった。早朝、続々と登山者が到着し、6時頃には満車となり林道の一部にも駐車する状況となっていた。

駐車場から越百山山頂：

林道を約40分程度進み越百山登山口に到着する。

登山道は良く整備され歩きやすい。地形図の等高線から、少し急登かな？と思っていたが、勾配の急な箇所はつづら折れの道になっており、楽に歩くことができた。

越百小屋を越えたあたりで雨が強くなりはじめレイン・ウェアを身に着けた。佐々木は、撥水性のある登山用ズボンの性能を確かめたく、上だけレイン・ウェアを身に着けた。はじめの頃は調子よく撥水していたが、稜線に上がってからの横殴りの雨には無力だった。結局、びしょびしょになり、靴の中も浸水する始末だった。

教訓：少々蒸し暑くても早めに雨支度すべし！



越百山から南駒ヶ岳

越百山からは稜線歩きとなる。天気が良ければ南アルプスを眺めながら気持ちよく歩けたことだろうが・・・ご覧の天気である。モチベーションが低下しないよう一步一步に集中することにした。

雨風とも徐々に強くなって来るが、意外にもそれほど不快ではない。むしろ、気分が高揚してくる不思議な感覚を味わっていた。

南駒ヶ岳に到着したところで、リーダーの判断により行動中止、ビバークとなった。岩陰にテントを設営し暖をとり濡れた衣服を乾かした。

温かいお茶を飲むと、身体が温かくなるのを感じた。思いの外、身体が冷えていたようだ。

教訓：寒さの回復は先ず腹の中から！

二日目

南駒ヶ岳から空木岳

夜中はかなりの強風だった。時折、テントが浮き上がるような感じがした。テント生地を通して風が入ってくる感覚もあった。さすがにゴアのテントは通気性がいいなと妙に感心していた。

明け方、雨は止んでいた。風は相変わらず強かったが、行動できないほどではない。朝食を済ませて予定通り出発した。



南駒ヶ岳から空木岳への稜線は、所々で目印のペイントが消えているが迷うほどではない。高低差も少なく楽に歩くことができる。

空木岳山頂で少し長めの休憩をとった。風も弱まり過ごしやすく、この山行で初めてマッタリとした休憩だった。

休憩中、前夜に小屋泊した登山者達が続々と登ってきた。さすが百名山。この天気での賑わいだから、好天であればどうなっているのだろうと要らぬ心配をした。

空木岳から下山

空木岳から歩き出して直ぐにガスがとれはじめ、南アルプスや恵那山も見えはじめた。いつもは当たり前前に眺めている山の景色だが、悪天候が回復した末に現れた山の景色は、とても貴重なものを感じられた。

木曾殿山荘は立派な小屋だった。この頃には、南駒ヶ岳が綺麗に見えるようになっていた。遠くに檜尾小屋も認められた。檜尾小屋は見晴らし抜群の場所に建っている。是非とも訪ねてみたい小屋だ。

木曾殿山荘直下には、お花畑が広がっていた。

今回の山行テーマである「50周年記念山行に花をそえる」に相応しい場所だった。



木曾殿山荘から北沢の吊り橋までは、樹林帯の中の整備された登山道である。途中に水場も二カ所ある。北沢の吊り橋からうさぎ平までは笹の道を進むことになる。草の蒸す感じが嫌らしい。うさぎ平から駐車場までは林道を歩くことになる。この林道歩きが微妙にウンザリする。

駐車場に到着した頃には、梅雨明けを確信させてくれる夏空が広がっていた。ガスの中で寒さに震えていた数時間前が懐かしく感じられた。



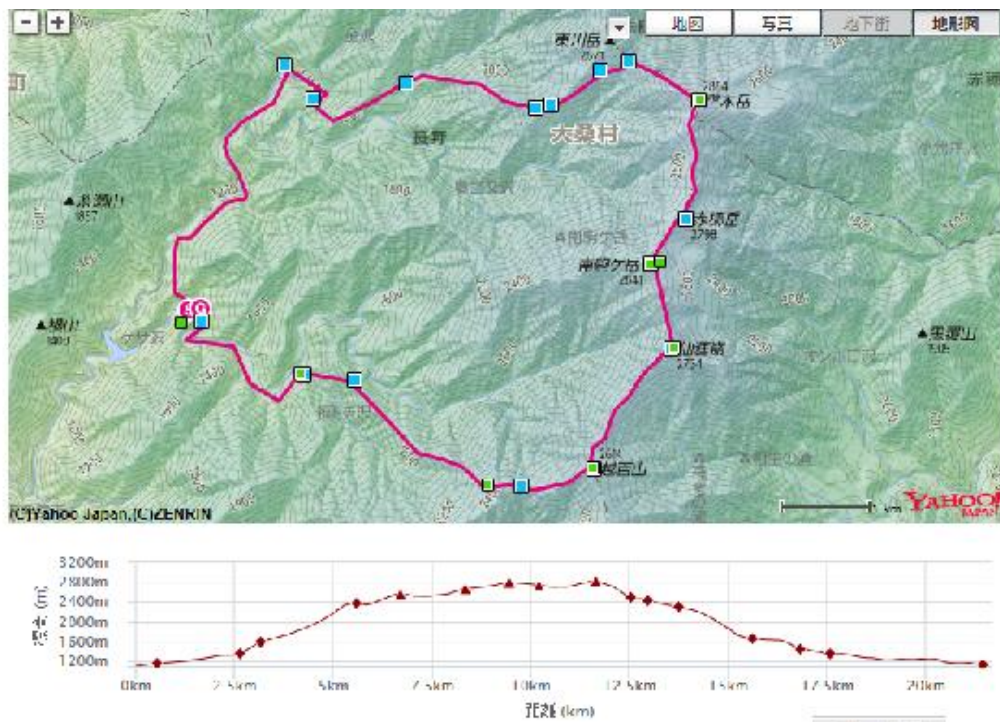
浜松へ

フォレスパ木曾あてら荘でひと風呂浴びて家路についた。

所感

歩き方、行動食や水分のとり方、米の炊き方、装備の選び方や使い方等々学びの多い山行だった。

行動概要



1 日目

伊奈川ダム上駐車場 06:00 06:35 福栃平(南駒-越百分岐)06:45 09:45 越百小屋

10:55 越百山 11:10 12:30 仙涯嶺 12:40 13:30 南駒ヶ岳 13:40 ビバーク地点泊

7 時間 0 分休憩 40 分合計 7 時間 40 分

2 日目

泊ビバーク地点 06:00 07:45 空木岳 08:05 09:00 木曾殿山荘 09:20

12:10 うさぎ平 12:15 13:50 ゴール地点 G

7 時間 5 分休憩 45 分合計 7 時間 50 分

(佐々木 記)